

2018年2月4日

福音書からのメッセージ

イエスは言われた。「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出て来たのである。」
(マルコによる福音書1章38節)

イエス様のところには、大勢の人たちがいやしを求めてやってきていました。他の人に連れて来られた人もたくさんいました。イエス様はその人たちに関わり、手を差し伸べられました。町中の人々が、イエス様がいた家の戸口にあふれていたそうです。

ある日のこと、イエス様は朝早くまだ暗いうちに、人里離れたところに行き、祈られます。イエス様は祈りを通して、神さまのみ心を聞かれたのだと思います。そしてご自分がどこに向かえばよいのか、知ったのではないのでしょうか。その場所とは、多くの人々がイエス様を求めてやってきた場所ではなくて、近くの他の町や村でした。そしてそこで「宣教する」と言われるのです。

ここでイエス様の宣教とは何なのか、少し考えてみたいと思います。今日の箇所の前半で、イエス様はペトロのしゅうとめをいやしました。人々から彼女が熱を出して寝ていることを聞いたイエス様は、彼女の元へと行きます。イエス様が自ら足を運び、手を差し伸べ、起こされたのです。

日本聖公会ではこの日曜日を、ハンセン病問題啓発の日と定めております。わたしは数年前、熊本の菊池恵楓園という国立療養所に行くまで、ほとんどハンセン病に対する知識を持ちませんでした。しかしそこを訪ね、そこで入居者の方と話していく中で、どういうことがあったのか、どういうことをわたしたちはしてきたのか、少しずつ学んでいくことができました。

その方はクリスチャンでしたが、彼から



神さまとの出会いについての話を聞くことができました。彼は、自分が病気になるから、イエス様と出会うことができたのだと言われます。つまりイエス様は、人々に差別され、隔離され、人として扱われない。それどころか名前すら奪われた人のところに行かれました。

「そこでも、わたしは宣教する」という言葉通りに、イエス様は、今何かを求めている人、何かにすがりたい人。まったく前を向くことができない人。そのような人たちのところに自ら行き、手を取り、起こされるのです。

それが神さまのみ心です。すべての人が起こされるようにと、神さまは願っています。自分の元に来ることができる人たちだけではなく、歩くことすらできずにうずくまってしまっている人の元に、イエス様は遣わされたのです。

わたしたちは、イエス様に会っているのでしょうか。イエス様との出会い、それはわたしたちにとって、どのようなことを意味するのでしょうか。わたしたちの元にも、イエス様は必ず来られます。そして手を差し出し、起き上がらせる。それがイエス様の宣教なのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>